

【記録】令和6年度 第3回徳島県立池田支援学校学校運営協議会

1 日 時

令和7年2月17日（水） 13:30～16:00

2 場 所

徳島県立池田支援学校3階プレイルーム

3 日程及び会次第

13:15～13:30 受付

13:30～16:00 学校運営協議会

(1) 開会（会長挨拶）

(2) 協議

① 学校評価について

② 学校の取組について

③ 各委員からの提言について

④ 学校運営協議会の推進について

⑤ その他

(3) 会長挨拶

(4) 学校長挨拶

(5) 閉会

4 協議における各委員からの意見・感想

③ 各委員からの提言について

委 員

○子ども一人ひとりが力をつけるには、教員の専門性を向上させるということ、そして家庭・地域との連携をとるということが必要であると思っている。

○先生方は、学校評価の目標以外にも日々の指導に熱心に取り組んでいる。どれだけやってどこがゴールなのか、わかりにくい。「働き方改革」に関して御提案いただきたい。

委 員

○「働き方改革」について、先生方はたくさん仕事を抱えている。最近、部活動なども外部から講師を招いているケースがある。このように外部講師の活用はできないか。

○感想として、防災学習の取組について、急なサイレンの音などで驚くかもしれない子どもについて『もしもの対策』が練られるので、訓練のうちから生徒に予告せずに行うことはいいと思った。

○先生方がお忙しいことは、夜間に電気がついている校舎を見て思う。

委員

- 本日、初めて池田支援学校にくるため、学校のホームページの『アクセス』を検索したところ、平仮名で『あくせす どうやったらいけますか』といった表記がされていた。そこに載せられた地図がものすごくわかりやすかった。人に優しい取組をされていることがわかった。池田支援学校に到着し、駐車場に行くと校舎まですごく遠かった。先生方は、積雪などの悪天候の中でも日々この距離を歩いていること、大変だと思った。
- 先ほど学校評価について紹介していただいた。評価を「B」とつけていた部分についても「A」でよいのではないかと思った。
- 芸術的な才能のある生徒が多い中、貞光ゆうゆう館でのアート展やホームページでのデジタルアート展など、感動させていただいている。地域で活動している「あさがお会」については、美馬分校の生徒に依頼して会員バッジやキーホルダーを作ってもらった。それをもとに、歌を歌詞作曲したので、生徒と交流させていただいて一緒に歌えたらと思った。

委員

- 私は今、地域の小学校のPTA副会長をさせていただいている。学校の先生方の負担がどうやったら減るかを検討している。子どもたちが主体的に、内発的動機付けて、自分たちで動けるようになれば、先生方も指示する回数が減るのではないかと考える。先日もオリエンテーリングを実施した。これまでは先生方が行先や休憩の取り方を計画していた。それを、子どもたちに作ってもらうようにしたところ、突拍子もないことを計画する。例えば10キロ歩くコースを計画した。このようなことは、大人たちでは思いつかない。自分たちで考え、主体的に動いてくれるような事業や取り組みができると、先生方の負担が減るのではないかと考えるが、なかなか現状は難しい。

委員

- 私が勤務する施設においても言えることだが、人が相手の仕事となると「働き方改革」が難しい点がある。うちの施設では、ICTを活用しようという動きがある。ICTを使って委員会などは簡略化する等、集まることをコロナ禍以降減らしたり、情報の共有の仕方工夫をしたりしている。
- また、トランシーバーは一方通行で使いにくさがあるため、施設ではインカムを奨励している。取り入れられるなら、学校の中でも先生方がやり取りをしやすくなるのではないだろうか。
- うちの施設では外国人を採用することで、人手不足の対策をしている。学校で外国人の採用は難しい点はもちろんあるが、視点の活用はできないかと思う。
- みまカフェについては、施設のグループホームが利用させていただいている。地域密着型で地域貢献ができる交流場所として良いところと

感じている。また、今年度の交流で、生徒が野菜を持ってきてくれた。デイサービスの利用者さんは、野菜の高騰もあり、「そろそろ野菜を持ってきてくれんだろかな」「でも今野菜がないからまだこんかな」と楽しみにしている様子がうかがえる。一度の交流があるだけで、利用者さんは楽しみにしている。コロナ禍が明け、施設としても地域貢献活動を進めていきたいので、交流会を実施できたらと願っている。

委員

- 近隣の小学校については夜12時過ぎても電気がついている。どこの学校も同様であろう。ここは教育委員会にお願いできないか。研究発表会や行事などで先生方は大変であると思う。さらに、今日説明いただいた学校評価プランについて、これ以上誰ができるかと思うほど、内容深く取り組んでくださっている。
- 地域の小学校との関わりにおける事務的な処理について、ひとつ紹介すると、例えば、運動会や卒業式などの来賓に対するお礼状などの文書は省略してもいいのではないかと話を進めている。来賓側としては、お礼状いただくことは丁寧で大変ありがたいと思っている。心は十分通じているので、そういった面から対策してみてもどうだろうか。
- 箸蔵の地域貢献について、博愛会があるおかげで、いろんな活動ができてすばらしい。箸蔵寺のお接待活動については、婦人会も年間4回清掃活動をしている。春の大祭、秋の大祭、夏休みにある8月4日のはし供養、年末の年始を迎える準備など、全国各地からたくさんの方が箸蔵寺にはいらっしゃる。その時にお接待してくれたらうれしいだろうと思う。ぜひ池田支援学校が行っている地域貢献活動について、チャンスがあれば婦人会も参入させていただけたらと思う。

委員

- 箸蔵寺のお接待は保護者としては覗いてみたい。回数を増やすとすると大変だと思うが、もしPTAでもお手伝いできることがあれば、一緒にさせていただきたいと思った。
- 先生方の働き方改革について、先ほど話に出たように民間を利用するという点はすごくいいと思う。1階と2階の職員同士でインカムを使うという点についてもすごくいいと思った。携帯電話もある時代であるが、簡単な操作ですぐにつながる方がいいなと思う。また、マチコミメールでもっと発信していただいてもいいのではないかなと思う。

委員

- 農業系の作業においてもインターンシップを行っている話があった。農業を行っている一般の事業所もある。常日頃から、障がい者の方が過小評価されているのではないかと感じている。彼らは非常に勤勉である。一般の事業所におけるインターンシップを増やしていけば見方が変わるのではないかと考える。
- 事業所が少なく生徒を送り出すという点でキャパが少ないが、実際に

仕事ぶりを見ていただく機会があれば、支援をしてくれる事業所として理解してもらえないのではないかと思う。特に、農業の仕事は、この地域では若い人が行うことも増えていて、少しずつ活気を感じるところもある。外国人が労働力として日雇いで雇われるなど、農業では人材が不足している話も耳にする中、なぜ日本の中に優秀な労働者がいるのに海外の人に担ってもらわなければならないのかという思いがある。障がい者が労働力になれるのではないかと思う。今後、一般事業所にインターンシップという形で力を発揮する機会があってもよいと思う。

委員 ○「働き方改革」について、支援学校と学園間では、日々非常に多い量での手紙のやり取りが行われている。近隣の箸蔵小学校と学園間では、手紙や欠席連絡のやり取りをメールで行っている。もし可能であれば、支援学校間でもメールでのやり取りをすることができれば、書面が減るし簡単であるし少しでも負担が軽減できないかと思う。学校の先生方はたくさんの業務を行い、また子ども一人ひとりで対応が異なるので、苦労は計り知れない。

○学校評価プランの「教職員の専門性・資質・指導力の向上」の箇所で、メンター制を実施しているという点において、教職員にあらかじめニーズを確認してそれに沿った計画を行い、実施されたことが、教職員の100%が学び合うことができたという評価につながったのではないかと思った。若い先生方はわからないことを聞きにくい、わからないまま過ぎていくということが生じるかもしれない。なかなか聞きたいけれど聞けないという状況下で、やみくもに実施してしまうと、年数が経つごとに聞けないことになるので、この取り組みはよかったと思う。

委員 ○箸蔵とことんでは、池田支援学校の作品展において、展示の場所の提供ができた。今後についても、協力できることはしたいので、アンケートの中で箸蔵とことんができるような御意見があれば、また教えてほしい。

○学校評価プランの説明を受け、質問。美馬分校の2-(1)について、「教員の90%が生徒への手立てを考えることができた」とある。残りの10%の教員に対して、学校側の教員に対しての手助けや指導はあるのか。同様に、池田支援学校本校の教育目標2-(4)メンター制度の評価について、「参加者の9割強から、研修によって専門性・資質・指導力が向上したとのアンケート結果がとれた」とあるが残りの1割はどうだったのか、うかがいたい。

○時間を惜しまず仕事をしてきている姿には感銘している。先生方は、無理はせず、身体だけには気をつけて御指導いただければよいと思う。

委員

- すばらしい点を3点伝える。1点目。本校の教育目標1の重点目標の中学部と高等部について、子どもの目標に対応した評価指標が設定されている点がすばらしい。その結果、きちんと評価がされ、成果が出ていることが明確にわかるようになっている。また、美馬分校の教育目標1の重点目標について、「生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育の推進」ということで、目標に対する評価指標が対応して設定されているので良い評価の仕方になっている。
- 2点目。本校分校ともずいぶん教職員の専門性を高める研修に力を入れている印象を受けた。教員研修が非常に充実してきたということがすばらしいと思った。
- 3点目。取り組みの紹介をいただいた中で、「廃材を利用する」ことは、前回の学校運営協議会で話し合って提案されていたことである。提言がすぐに実施されていたことは、動きがはやくて非常にすばらしいと思った。地域を元気にするということがこの学校の目標である。それに近づく取り組みをすぐにしていただけたことがすばらしい。
- 意見を2点伝える。1点目。学校評価の書き方について。本校の重点目標1の小学部の部分について、重点目標に「人と関わる力の向上」とあるが、評価指標が「人と関わる力を高める」ことを測定するものになっていないように感じる。「個別の指導計画に記載された目標を全児童が達成できた」と評価にあるので、おそらくこの中に人と関わる力を高められたということが言えるのかと思う。次年度、評価指標を設定される際に、重点目標に対応した指標を設定されると、評価がより適切にできるのでないかと思う。
- 2点目。本校の重点目標「人権意識を育てる児童生徒指導の充実」の目標に関して、「自尊感情を育てる活動を推進するという活動」であるので、評価指標として、子どもの自尊感情が高まったかどうかを評価したほうが良いと思う。現状では、教師がしたことが評価指標になっているが、教師がした結果、子どもの自尊感情がどう変わったのかを評価指標にしたほうがよい。そうすると、結果として、子どもの自尊感情が高まったのかそうではないのかが明らかになり、高まらなかったのであれば取り組みをより工夫しなくてはいけない、高まったのであれば行ったことは間違いなかったということがわかる。つまり、教育目標1「児童生徒一人ひとりに応じた学習や生活する力の向上」は、子どもの変容についての評価指標であったほうが、より直接的な学校評価になるのではないかと思った。
- 質問を1点うかがいたい。本校の重点目標「地域と連携した教育活動の推進」の「高等部生徒を対象とした校外での実習を充実させる」目標について、評価指標は達成されているように思う。この評価が「B」となっているのはなぜかをうかがいたい。
- 「働き方改革」について、学校評価プランの視点で見ると、この

学校は、「地域を元気にする子どもを育てること」を目標に掲げている。今している教育活動を含め、地域を元気にする子どもに寄与しないような学習活動については、行う必要があるのかを職員で検討してもいいのではないかと思った。

委員

○先生方の「働き方改革」について、委員の皆さんから御意見いただいた。元教員の視点で考えると、先生方にとって、あれもこれもやめたらいいのではと言われることが嬉しいわけではないと思う。先生方は熱意をもって取り組んでいるので、「子どものためにもっとやりたい」との気持ちもある。それが子どもの成長を実感すると報われる、うれしいと思う教員もたくさんいる。委員の皆さんからいただいた良かったと言ってくださったことを、この会場だけではなく、池田支援学校の先生方みんなに伝えたい。ということは、この学校運営協議会と学校の先生方とのコミュニケーションをもっと頻繁に取れたなら、これも働き方改革の一つになるのではないかと思った。子どもの成長と一緒に喜べるようなことができたらいいと思った。

④ 学校運営協議会の推進について

事務局

○まず、委員よりいただいた質問について、お答えしたい。教員は学校評価プラン以外においても目標設定や評価を行うことがある。学校評価プラン以外の評価において、「普通に頑張ればB評価」という視点のものもあり、「B」評価とした。もしよろしければ、「A」評価に変えさせていただきたい。

○資料7として、大林先生の執筆された資料を配付した。委員の皆様と子どもたち、委員の皆様と先生たちがつながっていくということに関して、まだまだこれから考えていく必要があると思った。今後どのようにしていけば、委員の皆様と学校との距離感がより近くなっていくのか。また、学校運営協議会にていただいたご意見を個々に参加したメンバーが教員に伝えていくが、どうしてもワンクッション入る。委員の皆様と教員が積極的に建設的な意見交換ができれば、より機動的に動けるのではないかと感じている。学校運営協議会をさらに協働的な会議にしていくために、御意見があれば頂戴したい。

委員

○資料7について説明する。学校運営協議会と学校の関係でどちらが上とか下ではない。この学校であれば「地域を元気にする子どもを育てる」目標に掲げていることを、委員も教職員も地域住民も保護者も共有して、一緒に「地域を元気にする子」にいかにか育てていくかの方向性を促すのが学校運営協議会の役割である。それが子どもを一番伸ばすことである、と書かれている。

○例えば、他の学校では、教職員にオブザーバーとして参加してもらい、

話し合いに参加して意見を出してもらう例がある。強制的な参加ではなく、関心があったり授業の空き時間であったりする先生方に参加していただく。ただし、意思決定はできない。そのような形で、学校運営協議会と教職員とのコミュニケーションを図る方法がある。他には、教職員のブースを作って、自身が学校で取り組んでいることを紹介するようなワークショップを行っている学校もある。児童生徒と交流するという点では、地域連携活動に無理のない形で委員にも一緒に参加してもらうという形もある。

- 委員
- 学校運営協議会の在り方について、委員より御意見があればうかがいたい。
 - 学校運営協議会において、「話やすい会場の座席配置をしてみても」といったような御意見でかまわないと思う。「委員が学校に対して意見を言いやすい」「取り組みについて聞きたいことを聞きやすい」工夫ができれば、委員も学校に関係しやすくなる。これらについてのアイデアはないか。
 - （すぐには意見が出なかったので、）なにかアイデアがある委員は、後でもかまわないので、事務局に提案いただきたい。

- 事務局
- 運営委員が学校行事に参加する際に、子どもの成長を同じメンバーとして見つめている存在として、教職員と同じ列に座るという学校もあるらしい。また、距離を近づけるために、年間12～13回取り組みをしているところもあると聞く。学校運営協議会に教員が参加するのであれば、授業日は参加が難しいので、放課後や長期休業中に実施することもひとつの方法。また、学校運営に関わっている部長や課長などを招聘して取り組むことなども考えられる。内容を精査しながら検討していきたい。
 - 今後は運営の方法についても検討、改善を行う。案内等はメールでさせてもらいたい。（委員の了承を得る）

⑤ その他

- 事務局
- 手元の資料6について、服装の見直しについて最終決定した。制服は、美馬分校と同じものになった。体操服は、アンケートにより希望を確認したところ、児童生徒、保護者、教職員で多数票を得たものになった。令和8年度より導入することとなった。

- 事務局
- 委員からいただいた質問について、お答えする。
 - 美馬分校の2-(1)について、ここに書かれているように、高等部1～3年生までの一人ひとりのケース会を長期休業中に実施している。実際に生徒が取り組む、具体的な方策を考えるケース会となっている。ただ、学校に来ることが難しい不登校傾向のある生徒、不登校の生徒

については、学校で取り組める手立てというより、関係機関とつなげ、お世話になることが多い。教員自身が子どもたちの力になれなかったという見方をした結果が10%に表れていると思う。

事務局

○池田支援学校本校の教育目標2-(4)におけるメンター制度の評価について、参加者の9割強から専門性等が向上したという結果のアンケートがとれたと記載してあるが、残りの1割については、無記名でのアンケートであるため「向上しなかった」「あまり向上しなかった」を選択した教員の特定はできず、フォローアップは難しい。直接的なフォローではないかもしれないが、自由記述欄に記入された内容については、次年度のメンター制度の取組の中でブラッシュアップして取り組んでいくようになる。